

質問者 渡邊 直樹 議員

通告順 1

質問事項 1	中学校の部活動の現状と今後の課題について	質問の 相手	教育長
<p>[質問要旨]</p> <p>津別町は、小学校のジュニアスポーツ（少年団）は8団体。中学校の部活動は吹奏楽部も含め7部あり、運動部についてはすべて少年団が存在しています。</p> <p>現在、特に団体競技では、学級（学年）の少人数化から、単独のチームでの編成が困難となり、他町との合同チームで活動しています。</p> <p>昨年12月、美幌町教育委員会は、中学校部活動「拠点校方式」導入に向けて、町内2校の野球部・サッカー部・女子バスケットボール部について、美幌北中学校を拠点にするとした一方、津別中学校とは合同チームで活動しており、拒まずとの見解が示されました。また、学校における働き方改革推進のための行動計画「津別町アクションプラン」において部活動の地域移行や合理的な部活動の推進を図ることとしています。</p> <p>そこで、津別中学校の部活動の現状と今後の課題について伺います。</p> <p>① 中学校生徒の部活動への加入率や少年団からの加入傾向、部活動への加入に向けた取り組みについては、どのようになっているのか。</p> <p>② 中学校部活動「拠点校方式」導入に向けた協議と、今後の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野球部・サッカー部・女子バスケットボール部の拠点校方式への移行についてはどのように判断されているのか。また、判断に至る協議や経過についてはどうなっているのか。 ・今後、他の部活への広がりについてはどうか。 ・今後、学校間の行事（テスト期間、文化祭等）日程の調整が必要と思うがどのように考えられているのか。 ・平日、休日（土日祝日、夏期冬期休暇）の部活動への送迎を行う保護者負担については、どう考えているのか。 <p>③ 「津別町アクションプラン」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の段階的な地域移行についてどのように進めていくのか。 ・生徒の規模に合わせた部の数の適正化についてどのように進めていくのか。 			

質問者 山田 英孝 議員

通告順2

質問事項 1	町有林を中心とした森林・自然体験の場の提供と 森林環境譲与税の活用について	質問の 相手	町 長
<p>[質問要旨]</p> <p>津別町の面積の86%を占める森林には、木材生産のほか、水資源を蓄え、育み、守る働きである水源涵養や国土の保全、地球温暖化の緩和、生態系の保護と生物多様性の維持、観光やレクリエーションの提供など、多くの機能がある。</p> <p>このような森林の役割が、将来にわたり健やかに発揮されるよう森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律が創設され、森林環境譲与税は令和元年度から活用、森林環境税は令和6年度から徴収予定となり、益々森林への関心が高まっている。</p> <p>そこで、次の点について伺います。</p> <p>① 町が町有林を管理している目的はなにか。また、その管理面積と管理の現状についてはどうか。</p> <p>② 町有林を中心とした森林を活用して、町民や観光客等を対象にした森林・自然体験フィールドとして提供する考えはどうか。</p> <p>③ 森林環境譲与税を活用して、北の森カレッジに入学する町民の学生に対し、町独自の入学支援金を給付する考えはどうか。</p> <p>④ 地元材の普及啓発も兼ねて、森林環境譲与税を財源とした移住体験住宅を建設し、移住希望者、林業、農業の実習者等の住まいとして提供する考えはどうか。</p>			

質問者 山田 英孝 議員

通告順2

質問事項 2	クーリングシェルター設置等の熱中症対策について	質問の 相手	町 長
<p>[質問要旨]</p> <p>地球温暖化による気候変動で、昨年も過去に例のない危険な暑さが続いたが、国は熱中症警戒情報から熱中症特別警戒情報を創設し、総合的かつ計画的な熱中症対策の推進を図っている。市町村には、クーリングシェルター（指定暑熱避難施設）を指定し一般に開放するなど、地域の実情に合わせ、熱中症弱者の予防行動の普及啓発を求めている。</p> <p>そこで、次の点について伺います。</p> <p>① 熱中症対策を進める部署は、総務課、住民企画課、保健福祉課、教育委員会等多岐に渡るが、中心となる部署はどこになるのか。</p> <p>② クーリングシェルターとしてどこの施設を指定する予定か。また、市街地以外の地区の対応についてはどのように考えているのか。</p> <p>③ 熱中症のリスクが高い高齢者や障がい者を対象に、エアコン購入費用の助成を行う考えはどうか。</p>			

質問者 高橋 剛 議員

通告順3

質問事項 1	防災について	質問の 相手	町 長
<p>[質問要旨]</p> <p>令和6年1月1日、石川県能登地方を震源とする地震が発生しました。最大震度は7を記録し、その影響は2カ月経った今現在も続き、地域住民の生活に多大な影響がでています。この災害に対して、津別町は職員を穴水町に派遣し、被災地支援を行っています。</p> <p>我が国は地震だけではなく、自然災害が多く発生する地理的特徴を有しています。津別町も例外ではないと考えています。</p> <p>そこで、次の点について伺います。</p> <p>① 災害発生時、広域避難が必要になる場合があると思うが、北海道や近隣自治体と話し合いはしているのか。</p> <p>② 町長は、派遣した職員から被災地の報告を受けていると思うが、それを踏まえて、津別町の防災において何が一番不足していると感じているのか。</p> <p>③ 令和元年12月定例会の一般質問において、避難訓練について質問しました。その際、防災訓練の充実を図っていきたい旨の答弁がありましたが、訓練は実施しているのか。</p> <p>④ 令和3年12月定例会の山田議員の一般質問において、避難行動要支援者についての質問があり、その中の答弁において、自主防災組織について、組織結成に向けて働きかけを強めていきたい旨の答弁がありましたが、組織結成は進んでいるのか。</p>			

質問者 小林 教行 議員

通告順4

質問事項 1	中高生への支援の拡充について	質問の 相手	町 長 教育長
<p>[質問要旨]</p> <p>津別町議会は町民の声を町政に届けるべく、2月10日に女性団体と、2月17日に青年団体と意見交換会を行った。</p> <p>さまざまな意見、要望が挙げられたが、その中でも特に若い世代が重視している所、早急な対応が必要と感じたのが、中高生への支援を拡充して欲しいとの声であった。</p> <p>これからも若い世代に津別町に住んで子育てを続けていただくためにも、今後の対策が必要であると考えます。</p> <p>そこで、次の点について伺います。</p> <p>① 中学生の部活動について、保護者より平日の他校への送迎が負担であると聞いているが、他校への送迎について今後どのような対応を考えているのか。</p> <p>② 現在中学生は、夏期及び冬期などの休み期間中には公設民営塾を利用することはできるが、高校生と同様に通年で利用することはできないか。</p> <p>③ 町外に通学している高校生に対して、交通費を助成することはできないか。</p>			

質問者 巴 光政 議員

通告順5

質問事項 1	パブリックコメントの現状と課題について	質問の 相手	町 長
<p>[質問要旨]</p> <p>パブリックコメントは町政における公正の確保と透明性の向上及び町民参加の促進を図り、もって開かれた町政運営を推進することを目的としています。手続は、政策、制度等を決定する際に、政策案や資料を公表し、それに対する町民等の意見を求め、それを考慮しながら最終決定を行い、考え方を公表することになっています。</p> <p>そこで、次の点について伺います。</p> <p>① 過去2年間の政策等の策定等の手続き件数と町民等の意見件数、意見の修正件数についてはどのようにしているか。</p> <p>② 公表は、町長等が指定する場所での閲覧又は 配付、インターネットを利用した閲覧の方法等により行うものとなっているが、指定する場所について広げる考えはないか。</p> <p>③ 公表に関して、広く町民等の意見を求めるならば、広報等に折り込みをしてお知らせしているが、政策変更点のポイントを何点か載せるなど工夫して、周知をするのが良いのではないか。</p> <p>④ 政策案や資料を閲覧する場合、何ページにも及ぶ場合は、指定する場所で意見を考えるには条件的に無理があり、資料を持ち帰るなどの対応ができないか。</p>			

質問者 篠原 真稚子 議員

通告順6

質問事項 1	フレイル予防について	質問の 相手	町 長
<p>[質問要旨]</p> <p>介護保険開始から23年を経過し、団塊の世代が75歳以上になる2025年に向けて、いかに高齢者の健康寿命を維持し、介護に頼らないで健康な生活を続けていけるか支援していくことが重要と考える。介護保険料の上昇を抑えていくことも喫緊の課題です。</p> <p>そこで、次の点について伺います。</p> <p>① 現在の65歳以上の高齢者、要介護者、要支援者、一人暮らしの人数及び100歳以上の人数と2040年の推計は、どうなっているのか。</p> <p>② 高齢者が住み慣れた地域でいつまでも元気に社会参加をしながら毎日を送るために「フレイル予防」の重要性が大きく取り上げられつつあるが、本町における高齢者のフレイル予防に対する考え方と現在の取り組み内容は、どのようになっているのか。</p> <p>③ 個々の高齢者の置かれた状態によりフレイル予防に向けた効果的な取り組みは異なると思うが、歩行姿勢測定システムによる分析及び個人へのフィードバックなどデジタル技術を活用した取り組みもあるようです。フレイル予防、介護予防事業のDXに向けては、どのように考えているのか。</p>			

質問者 山内 彬 議員

通告順7

<p>質問事項 1</p>	<p>まちづくり基本条例について</p>	<p>質問の 相手</p>	<p>町 長</p>
<p>[質問要旨]</p> <p>町政方針で公約である「まちづくり基本条例」について、令和7年度末の制定を目指し、じっくり時間をかけて協働による策定づくりを目指して参りますとしているが、2年間のスケジュールをどのように進めるのか伺います。</p>			
<p>質問事項 2</p>	<p>人口減少対策について</p>	<p>質問の 相手</p>	<p>町 長</p>
<p>[質問要旨]</p> <p>昨年12月22日に厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所の2050年までの地域別将来推計人口が発表されました。それによると津別町は2050年では1,852人に落ち込むとされています。</p> <p>津別町の厳しい現状を直視し、これまでの人口減少対策に対する施策の検証と今後の対策について速やかに検討すべきと考えるが町長の考えを伺います。</p>			
<p>質問事項 3</p>	<p>北海道つべつまちづくり株式会社について</p>	<p>質問の 相手</p>	<p>町 長</p>
<p>[質問要旨]</p> <p>地方創生事業の一環として「北海道つべつまちづくり株式会社」が平成31年3月に設立され5年が経過します。設立当時から町民の期待感とまちづくりがどう変わるのか見守ってきたことと思います。</p> <p>昨年完成した大通地区コミュニティ施設の指定管理者になり一層町民サービスに寄与する業務が増えつつあるが、会社の事業及び経営内容等を逐次町民に知らせるべきであると思うが伺います。</p>			